

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年8月17日(2006.8.17)

【公開番号】特開2004-107665(P2004-107665A)

【公開日】平成16年4月8日(2004.4.8)

【年通号数】公開・登録公報2004-014

【出願番号】特願2003-322920(P2003-322920)

【国際特許分類】

C 0 9 D 5/18 (2006.01)

C 0 9 D 5/00 (2006.01)

C 0 9 D 7/12 (2006.01)

C 0 9 D 201/00 (2006.01)

C 0 9 K 21/02 (2006.01)

C 0 9 K 21/04 (2006.01)

C 0 9 K 21/06 (2006.01)

C 0 9 K 21/10 (2006.01)

C 0 9 K 21/12 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 5/18

C 0 9 D 5/00 Z

C 0 9 D 7/12

C 0 9 D 201/00

C 0 9 K 21/02

C 0 9 K 21/04

C 0 9 K 21/06

C 0 9 K 21/10

C 0 9 K 21/12

【手続補正書】

【提出日】平成18年7月5日(2006.7.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

以下の例では次の製品を使用した。

^(R) Pliolite(プリオライト)(固形物)(フランス国在グッドイヤー社)

これは、ビニルトルエン- アクリレートコポリマーに基づくニュートン熱可塑性樹脂である。

^(R) Mowilith(モビリス)DM230

これは、酢酸ビニル及びパーサチック酸エステルからなる、可塑剤不含の約50%濃度の水性コポリマー分散物である。

^(R) Exolit(エクゾリット) AP 462(フランクフルト・アム・マイン在のクラリアント GmbH)

これは、硬化したメラミン- ホルムアルデヒド樹脂からなるカプセル封入材を約10重量%含む、^(R) Exolit AP 422に基づくマイクロカプセル封入されたポリリン酸アンモニウムである。これはヨーロッパ特許(EP-B)第0 180 795 号の方法によって製造される。

^(R) Exolit AP 422 (フランクフルト・アム・マイン在のクラリアント GmbH) は、式 (NH₄

PO_3) ($n = 20 \sim 1000$ 、特に $500 \sim 1000$) で表される、自由流動性の粉末状でかつ水に対する溶解性の低いポリリン酸アンモニウムである。 $45 \mu\text{m}$ 未満の粒度を有する粒子の割合は99%を超える。

例 1 (比較例)

以下の物質を互いに混合し、次いで、試験するシートに適宜塗布した。

38重量部の^(R) Exolit AP 462

10重量部の^(R) Pliolite (固形物)

8 重量部のメラミン

8 重量部のジペンタエリトリトール

8 重量部の二酸化チタン

全量を100 重量部にする量の増粘剤、可塑剤及び溶剤。

【 手続補正 2 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 3 4

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 3 4 】

本発明の耐火性塗料を用いることにより、防災時間を有利に延長できるか、または使用量を有利に減少することができる。反応開始温度の著しい下降も見られる。